

琉球大学学術リポジトリ

[記事](展望講演)燃料メタノール導入の動きと沖縄

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森田, 大 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017215 |

研究発表および特別講演要旨

【展望講演】

燃料メタノール導入の動きと沖縄

琉球大学工学部 森田 大

最近、俄かにあわただしくなった我国の燃料メタノール（LCF）導入の動きを離島県沖縄の立場から考えてみようというのが本講演の主旨である。

最初に、世界及び日本のメタノールの需給の現状を概観し、最近の国内のメタノール導入の動きを紹介する

燃料メタノールの用途は、目下の所、自動車用ガソリン代替燃料への志向が強いが、価格問題を

別にして、エンジンの性能と材料の劣化の問題及び排気ガスの環境への影響という技術上の議論が存在する。こうした議論の基本的テーマを紹介しながら、沖縄で将来の離島用電源と考えられている燃料電池の原料をメタノールで賄う場合の技術的、経済的問題にふれ、さらに、自動車用燃料としても利用する場合の対応やインパクトについて言及する。